

日 時 令和元年10月30日(水) 6校時  
 場 所 4年生教室  
 児 童 23名  
 指導者 佐々木 真琴  
 大阪 彩子(学習支援)

1 単元名 地いきの「ぼうさいしせつ」を知ろう

2 単元の指導構想

本校の防災教育の目標の1つに「災害発生に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための主体的行動がとれる能力を育てる」がある。また、中学年の重点目標の1つに「災害の時に起こる様々な危険について知り、自ら安全な行動をとれるようにする」がある。そこで、本単元では地域の防災施設が、災害時にどのような働きをもつのか知り、様々な災害発生時に発信される情報を正確に判断する方法を学ぶ。それらの情報を活用し、様々な自然災害が発生することを想定して、地域の防災マップを作成する。自分たちが暮らす街の防災マップを作成させることで、実際に災害が起こる危険性が高まった時、より安全に避難行動をとることができる能力を高めていく。

子どもたちは、本単元の防災学習で防災施設の働きや、様々な災害発生時に発令される警報や注意報について知り、自分たちの地域でも様々な災害が発生する可能性があることを学習する。単元のもよみの段階では、地域における危険箇所を知るとともに、災害が発生する可能性が高まった時に、すばやく避難行動をとるための知識を身に付け、実践しようとする態度を育てたい。

3 単元の指導計画(25時間)

- 第1次 地域の防災施設を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11時間
- 第2次 気象災害について知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- 第3次 避難場所や避難方法を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12時間(本時第7時)

4 本時の指導計画

(1) 目標

防災マップを作成する活動を通して、様々な災害から命を守るために必要なことを考えることができる。

(2) 評価規準【知識・技能】

ねらいを達成している児童の姿	努力を要する児童への支援	評価方法
防災マップを作成する活動を通して、様々な災害から命を守るために必要なことを考えている。	グループでの話し合いに支援に入り、どんなことが話されているかを確認したり、「怖かったらどうするか」を話させたりする。	グループ内での交流と全体での発表、学習シートによる評価 (発言内容・記載内容)

(3) 展開

段階	○学習内容・予想される子どもの反応	○支援	◇準備 ◆評価
導入 5分	<p>1 前時までの学習内容を振り返り、学習課題を確認する。</p> <p>(1) 防災マップに何を表したか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震・津波で起こる危険</li> <li>・暴風で起こる危険</li> <li>・大雨で起こる危険</li> </ul> <p>(2) 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>災がいからひがいを受けないために、必要なことは何か考えよう。</p> </div>	<p>○防災マップに表した危険個所が多かったことを想起させ、課題意識を持たせる。</p>	<p>◇総合ファイル ◇防災マップ</p>
展開 30分	<p>2 どのような被害が起こるか考える。</p> <p>(1) 予想される被害をカードに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電柱が倒れる。</li> <li>・車や人が流される。</li> <li>・川が氾濫して浸水する。</li> <li>・看板が飛ぶ。</li> </ul> <p>(2) カードに書きこんだ予想される被害を発表する。</p> <p>3 命を守るために必要なことは何か話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに身を守る行動をとる。</li> <li>・避難場所の確認が必要。</li> <li>・普段から避難の準備をしなければならない。</li> </ul> <p>4 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>様々なさいがいから命を守るためには、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にひなん場所のかくにんをする。</li> <li>・いつでもひなんができるように準備する。</li> <li>・すぐに身を守る行動をとる。</li> </ul> </div>	<p>○グループに分かれて、シールのある場所で予想される被害を白カードに書かせる。</p> <p>○話し合いで出された内容を集約し発表させる。</p> <p>○これまでの学習や避難訓練などを振り返らせながら、災害から被害を受けないために必要なこと、自分の命を守る方法について考えさせる。</p>	<p>◇白カード</p> <p>◆様々な災害から、身を守るために必要なことを考えることができる。</p>
終末 10分	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>(1) 学習シートに振り返りを書く。</p> <p>(2) 振り返りを交流する。</p> <p>6 次時の予告をする。</p>	<p>○児童の発表を中心に、本時のまとめをし、学習シートに書かせる。</p> <p>○振り返りの視点として「今日学んだこと」と「これからに活かしたいこと」の2点を提示する。</p>	<p>◇学習シート ◇紙板書</p>

## 5 子どもたちの感想

- ・ 災がいつから自分がひがいを受けないために、どのような備えが必要なのか考えることができました。次は、学校の周辺だけではなく、ほかの地区にもきけんな場所がないか調べて、どの場所でも災がいにそなえられるようにしたいです。
- ・ 学校の周りだけでこれだけきけんば場所があるなら、鶴住居全体でみるともっと多いのではないかなと思いました。どのような災がいにそなえられるように、事前に防災グッズを準備をしたり、ハザードマップをかくにんすることが大切だと学びました。
- ・ 鶴住居にはたくさんのきけんなところがあると分かりました。災がいつから、自分や家族がひがいを受けないために必要なことが分かったので、本当に災がいつ起こった時のことを考えてふだんから生活したり、情報を集めたりしたいです。
- ・ 自然災がいつは、いつどのような場所で起こるのか予想ができないので、事前にひなんするために必ようなものや、ひなんする道をおぼえておこうと思いました。学んだことを、実さいに災がいつおきた時に活かしたいです。



## 6 参会者からの主な感想

- ・ 子どもたちの防災への意識の高さを強く感じた。その子どもたちに、防災についてたくさん考えさせ、たくさん話し合わせ、批判的な考えも持たせもする、レベルの高い授業だった。
- ・ 系統的な防災教育の積み重ねを感じました。また、「主体的に学び行動する」という力を、子どもたちの学び合いから感じました。「まち歩き」をして防災マップを作ることで、災害を「自分事」としてとらえ、命を守るために必要なことを真剣に考えることができたことが伝わりました。
- ・ 振り返りの視点を与えて、学習を振り返らせるのは、子どもたちも分かりやすく、書きやすかったと思うので、参考になりました。

## 7 指導を終えて

〈成果〉

- まち歩きをして、危険個所を子どもたちが自分たちの目で確かめることで、災害がいつ起こるか分からないこと、自分たちの身近にあることを実感させることができた。
- 1学期からの既習事項を活かし、災害から起こりうる被害について、具体的に考えることができた。
- 防災マップ作りを通して、身の回りの危険に気づき自分の身を守るために必要な事を考えることができた。

〈課題〉

- ▲ 限られた時間の中でまち歩きをする際、視点を絞ることや特に注目してもらいたい個所を絞る必要がある。
- ▲ まち歩きをするルートを、子どもたちの登校ルートと合わせると、より自分事として捉えることができたと考えられる。
- ▲ 危険個所で起こりうる被害を考えさせる際、被害の意味の捉えがグループによって違っていた。グループ学習ではなく、特に被害を考えさせたい場所の被害を全員で考えたほうが、より具体的な被害を考えることができたと考えられる。